

主催


 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
 Japan Agency for Medical Research and Development

 2021年
 3月24日(水)
 13:00~15:35
 オンライン
 開催

極限環境医療機器開発に向けた 普及啓発・橋渡し

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) では、医療機器開発における異分野連携の一つとして、医学と宇宙を始めとした極限環境の連携に注目しています。宇宙や極限環境という閉鎖された空間環境や専門家不在環境下での医療体制は、地域医療、僻地医療、極限環境医療等に通じていると考えられ、医療機器開発の新たなイノベーションアプローチとして、新たな着想につながる事が期待されます。

本イベントでは、極限環境における医療機器開発の可能性を紹介すると共に宇宙医療機器開発、極限環境医学に関心のある企業とアカデミアとの橋渡しマッチングイベントを開催致します。

基調講演には、宇宙飛行士の山崎直子さんをお招きし、「宇宙環境の特徴と宇宙での健康管理」をテーマにご自身の体験を基にお話を伺います。また、宇宙と地上の双方で使える医療機器開発を行っている現場臨床医の方や企業、研究者の方々と交えてシンポジウムを行い、ビジネスマッチングの機会を提供します。奮ってご参加ください。

13:00~13:05 開会のご挨拶

～AMEDにおける極限環境医療機器開発の取り組み～

日本医療研究開発機構 医療機器・ヘルスケア事業部 部長

 タケガミ シロウ
 竹上 嗣郎

13:05~13:15 【特別講演】

異分野融合による医療機器開発

日本医療研究開発機構 理事長

 ミシマ ヨシナオ
 三島 良直

13:15~13:30 【基調講演】

宇宙環境の特徴と宇宙での健康管理


 宇宙飛行士
 ヤマザキ ナオコ
 山崎 直子

千葉県出身。2010年スペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、国際宇宙ステーション (ISS) 組立補給ミッション STS-131 に従事した。2011年に宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 退職後、内閣府宇宙政策委員会委員、一般社団法人スペースポートジャパン代表理事、日本ロケット協会理事・「宙女」委員長、日本宇宙少年団 (YAC) アドバイザー、宙ツーリズム推進協議会理事、環境問題解決のための「アースショット賞」評議員などを務める。著書に『宇宙に行ったらこうだった!』(リビックブックス社 2020年11月出版)、『宇宙飛行士になる勉強法』(中央公論新社) など。

13:30~13:50 【シンポジウム】

極限環境における医療機器開発の方向性


 宇宙飛行士
 ヤマザキ ナオコ
 山崎 直子

 同志社大学
 研究開発推進機構
 宇宙生体工学プロジェクト
 客員教授
 オオヒラ ヨシノブ
 大平 充宣

 国立病院機構新潟病院
 臨床研究部医療機器
 イノベーション研究室
 イシキタ ナオユキ
 石北 直之

 昭和電機株式会社
 作業環境改善・ヘルスケアチーム
 ウエダ エイジ
 上田 英史

休憩

13:55~14:40 【橋渡しマッチング】

テーマ別ピッチ①: アカデミアピッチ


 同志社大学
 研究開発推進機構
 宇宙生体工学プロジェクト
 客員教授
 オオヒラ ヨシノブ
 大平 充宣

 北海道大学
 遺伝子病制御研究所
 分子神経免疫学分野 教授
 ムラカミ マサアキ
 村上 正晃

 玉川大学
 名誉教授
 キムラ ミノル
 木村 實

14:40~15:25 【橋渡しマッチング】

テーマ別ピッチ②: 企業ピッチ


 株式会社リモハブ
 代表取締役社長
 タニグチ タツノリ
 谷口 達典

 atDose (アットドウス)
 株式会社
 代表取締役
 ナカムラ ヒデノリ
 中村 秀剛

 日本レドックス株式会社
 代表取締役
 サワダ マサヒサ
 澤田 政久

15:25~15:35 閉会のご挨拶

 日本医療研究開発機構 PD (プログラムディレクター) タケナカ ヨシユキ
 国立循環器病研究センター 名誉所員 妙中 義之

参加無料

 お問い合わせ(事務局) シンポジウム運営事務局
 運営受託者: 有限責任監査法人トーマツ
 担当 高原・岩本・森本・富澤・後藤

TEL: 03-6213-1251 E-MAIL: amed-innovation@tohmatu.co.jp

参加登録はこちらから (シンポジウム専用サイト)

<https://v2.nex-pro.com/campaign/22520/apply>
